

Redox Titration

11月15日(水)、2学年の理数科クラス対象に、教科横断型授業(化学×英語)の一環として、酸化還元滴定の実験を英語にて行いました。

事前学習として、英語コミュニケーションⅡの授業で、酸化還元滴定の実験に際して必要な英単語や、英語の表現の学習をしました。また、実際の実験場面を想定して、使用する

と思われる用語などをリストアップし、それらを英語に翻訳して化学英語に関する語彙を定着させました。



実験当日は、実験の目的、手順、操作、レポートの作成に至るまで全て「All in English」で実施しました。化学の教諭が、英語で本時の目標や実験手順、実験の操作を指示し、生徒たちは学習済みの英語を用いて、班員で協力して実験を進めていきました。

当初はぎこちないやりとりが続き、理科の実験とは思えないほど化学教室は静かでしたが、徐々に実験器具の操作や化学英語を使用することに慣れ、実験後半では、指示役の生徒と操作を行う生徒、記録を取る生徒など役割分担をスムーズに行って、実験を円滑に進めることができました。今回は、実験のレポートやリフレクションも英語で作成する予定です。



今後も英語で理科実験に取り組み、科学英語を身近に感じていければと思います。